

# 安中市

## 移住・定住

# アクションプラン

あんなか

L I V E

地域づくり  
プラン



企業連携  
プラン



安中農ライフ  
プラン



峠のまち  
プラン



2025年3年

安中市



## はじめに

この度、安中市では、「安中市移住・定住アクションプラン（あんなかL I V E）」を策定いたしました。今、少子高齢化および地方における若者のUターンの鈍化は、今後における持続可能な地域社会の実現に向けて大きな課題となっております。その一方で、様々な時代背景によりライフスタイルの多様化が進んでおり、都市部から地方への移住が大きく注目されております。このような中で、「まちづくり元年」と位置付けた令和6年度において策定した本アクションプランは、令和7年度からの「まちづくり」のソフト面を担うものであります。

経済低迷、人口減少社会に直面する時代において、今までどおりのやり方では地域の暮らしを維持することは難しくなっていきます。これを乗り切るには、市民の皆様、事業者の皆様、各団体の皆様との連携・協働が必要であり、行政と連携したハイブリッド型の地域づくりが一層求められます。私たちの住む地域をこれからの若い世代に自信をもって残すことができるよう、関係する皆様と着実に本アクションプランを進めてまいります。

結びに、本アクションプランの策定にあたり、ご尽力いただきました安中市移住・定住アクションプラン策定委員会の皆様をはじめ、フィールドワークを経て、安中市の移住・定住について提案をしていただいた高崎商科大学の皆様、アンケート等で貴重なご意見をいただきました皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。



令和7（2025）年 3月

安中市長 **岩井均**

# 目 次

## 第1章 アクションプラン策定にあたって 1

- 1-1 背景と目的..... 1
- 1-2 位置づけ..... 2
- 1-3 期間..... 2
- 1-4 持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえた推進..... 3

## 第2章 本市の現状と課題 4

- 2-1 人口の減少と地域の変化..... 4
- 2-2 暮らす人・働く人の声（各種アンケート調査結果）..... 5
- 2-3 策定委員会からの意見..... 6
- 2-4 重視すべき視点（課題）..... 8

## 第3章 アクションプラン 9

- 1 アクションプランが目指す方向性（ビジョン）..... 9
- 2 ビジョンの実現に向けた「2つのモデル」と「4つのプラン」..... 10
  - モデル1 地域づくりモデル 「労力が小さくても地域が回る仕組み」をつくる.... 11
  - モデル2 移住・定住モデル 「人口を維持」する..... 15
- 3 「4つのプラン」を支えるベースプラン..... 22

## 第4章 推進体制 24

## 資料編 25

- アクションプラン策定経過..... 25
- 安中市移住・定住アクションプラン策定委員会名簿..... 26

## 特別編（応援メッセージ） 28

- コーディネーター野口さんからのメッセージ..... 28
- アドバイザー熊倉さんからのメッセージ..... 29

# 第1章 アクションプラン策定にあたって

## 1-1 背景と目的

### ◆地域の力を活かし、より暮らしやすく・暮らす楽しみにあふれるまちをつくる

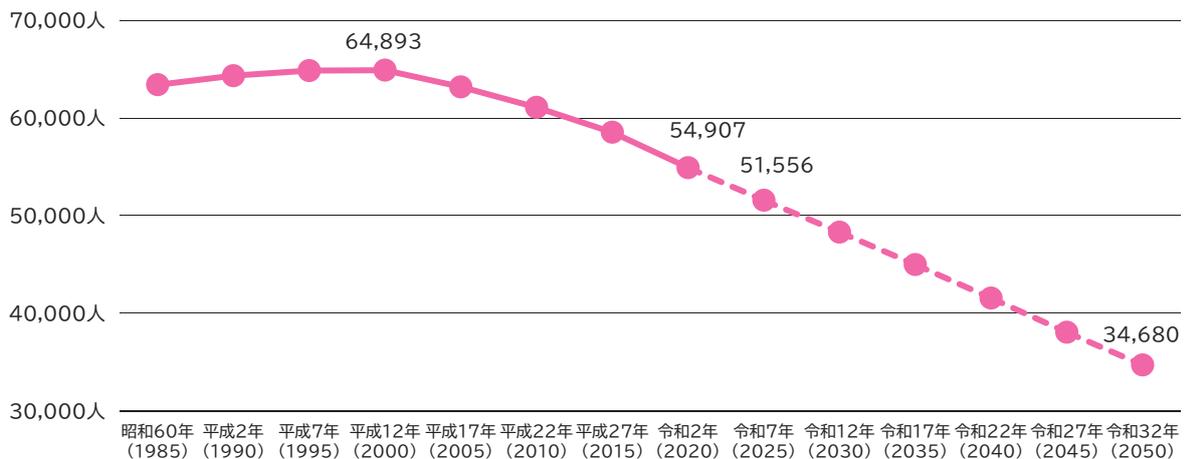
本市の人口は、平成12(2000)年をピークに減少に転じ、令和7(2025)年の51,556人が、25年後の令和32(2050)年には34,680人に減少(約32.7%減)すると推計されています。

人口減少は、私たちの暮らす地域の構造や、人々のつながり方、暮らし方に影響を及ぼすと考えられ、地域経済や地域コミュニティの縮小、行政サービスの質の低下や量の減少などが懸念されています。

しかし、本市では、これまで市民が育み、重ねてきた地域の力が、文化や産業をはじめとした多面にわたる層の厚いまちづくりにつながっており、未来に向けた可能性に満ちています。人口減少やその影響が懸念される中であっても、そのような**地域の力を活かし、より暮らしやすく、暮らす楽しみにあふれるまちづくり**に、まちぐるみで取り組むことが、本市の未来をつくることにつながると考えられます。**「安中市移住・定住アクションプラン」**

(以下、「本プラン」という。)は、そのためのアクション(行動)をプラン(計画)として策定するものです。

**地域の力を活かし、より暮らしやすく、暮らす楽しみにあふれるまちづくり**で、今、安中市で暮らしている人と、まだ暮らしたことのない人や、かつて暮らしていた人が、「暮らし続けたい」「暮らしたい」と思えるようにすることがこのアクションプランの目的です。



人口の将来推計

資料：令和2(2020)年までは「国勢調査」(総務省統計局)による実績値、令和7(2025)年以降は「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)による推計値

## 1-2 位置づけ

### ◆総合計画に基づく行動計画

本プランは、本市のまちづくりの最上位計画である「あんなか まちづくりビジョン 2024（第3次安中市総合計画）」（以下、「総合計画」という。計画期間／令和6（2024）年度から令和13（2031）年度までの8年間で掲げられている7つの基本目標の1つ「経済が活性化し 元気で魅力にあふれるまち」を達成するための基本施策「移住・定住の促進」に位置づけられます。また、上記の総合計画において、分野の枠組みを超えて総合的かつ横断的に地域の課題解決に取り組むために設定されている5つの重点プロジェクト\*の1つ「知って、行きたくなり、住んでみたくなるあんなかをつくる」にも位置づけられており、これらに基づき、分野を横断して取り組むものとしします。



基本目標6 経済が活性化し 元気で魅力にあふれるまち		
▼基本施策		
<b>商工業の振興</b> 中小企業や個人商店を対象とする支援を継続的に推進します。	<b>雇用対策の推進</b> 企業・事業所の生産性と従業員の知識や能力の向上を支援します。	<b>農業の振興</b> 農業者の高齢化や後継者不足が深刻化する中、持続可能な農業生産体制の整備を推進します。
<b>林業の振興、鳥獣被害対策の推進</b> 安中市鳥獣被害防止対策協議会と連携して、計画的な有害鳥獣被害対策を推進します。	<b>観光の振興</b> （一社）安中市観光機構との連携強化や、広域観光連携の促進を図ります。	<b>移住・定住の促進</b> 移住・定住者の増加に向けて、市民と行政や関係団体が連携・協力する体制づくりを進めます。

資料：「あんなか まちづくりビジョン 2024（第3次安中市総合計画）概要版」  
 （左図：表紙、右図：7ページより基本施策「移住・定住の促進」記載部分を抜粋）

## 1-3 期間

### ◆令和9年度までの3年間とし、総合計画の見直し時期と連動

本プランは、令和7（2025）年度から令和9（2027）年度までの3年間で計画期間とします。令和9（2027）年度は、総合計画前期基本計画の最終年度と同じであり、総合計画の見直し時期と連動させることで、変化の激しい社会・経済情勢への対応と、プランの実効性、持続性の確保を図ります。

年度	令和	6	7	8	9	10	11	12	13	
	西暦	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	
総合計画	基本構想	第3次計画								
	基本計画	前期基本計画				後期基本計画				
移住・定住アクションプラン	策定	→								

\* 5つの重点プロジェクト：「安中市デジタル田園都市構想総合戦略」としての位置づけを兼ねている。

## 1-4 持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえた推進

### ◆17のゴールすべてを見据えつつ、特にそのうちの5つに留意

本プランは、全体を通じて「持続可能な開発目標（SDGs、エスディージーズ）」を踏まえて推進を図るものとします。SDGsは、持続可能な世界の実現に向けて、平成27(2015)年9月の「国連持続可能な開発サミット」において採択された世界共通の目標で、令和12(2030)年までに達成することを目指すものです。

本市においても、総合計画における各基本目標や、重点プロジェクトの各施策にSDGsを位置づけ、その推進を図っています。本プランでは、SDGsの17の目標（ゴール）すべてを見据えながら、特に以下の5つのゴールに留意しつつ、取り組みを推進します。



※総合計画における基本目標、重点プロジェクトの各施策の双方に位置づけられる4つのゴール（8、9、11、17）にゴール（5）を加えた5つを設定

## 第2章 本市の現状と課題

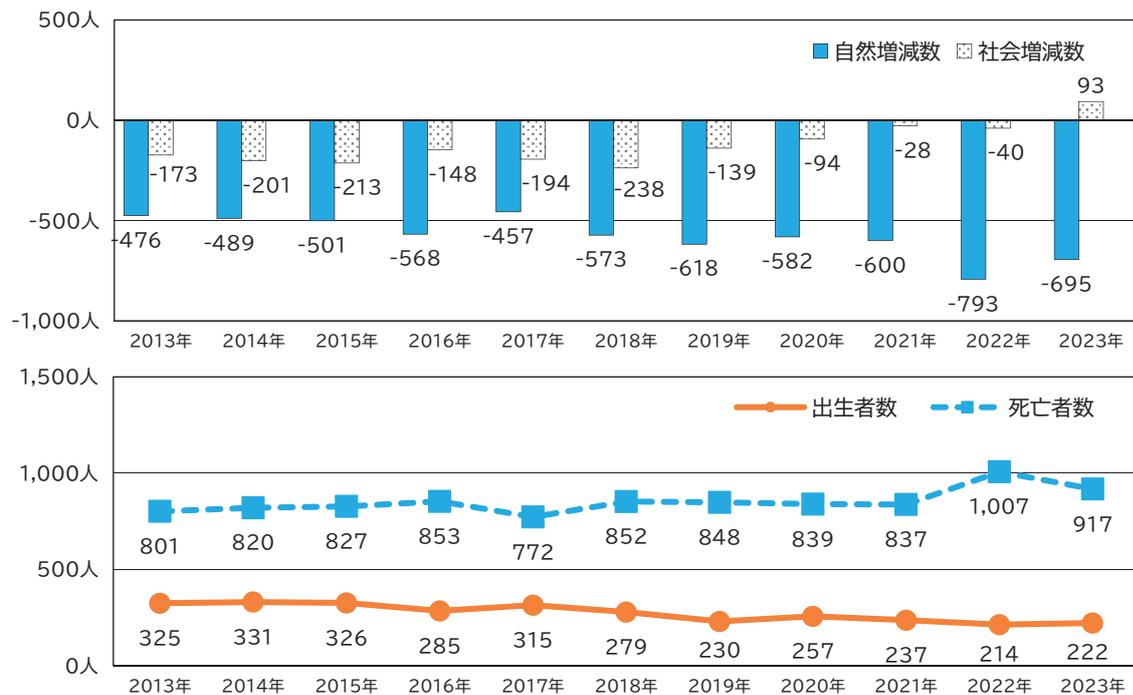
### 2-1 人口の減少と地域の変化

#### ◆人口推移の内訳を見ると、近年では「社会増減」の変動が緩やか

本市の人口推移について、その内訳を見ると、「社会増減」（転出数と転入数の差）では平成27（2019）年以降、国外からの転入超過が続く一方、国内への転出超過が続いていましたが、近年特に国内の社会増減では大きな変動がなく、令和5（2023）年は国内、国外ともに転入超過となっています。

#### ◆「自然減」が続いている

「自然増減」（死亡数と出生数の差）では出生者数と死亡者数の差が見られ、死亡者数が多いことによる「自然減」が続いています。



資料：住民基本台帳人口・世帯数、人口動態（市区町村別）（総計）（総務省）

#### ◆地区によって人口の減少傾向が異なる

人口の推移を地区別にみると、市内14地区のうち、安中、原市、板鼻の3地区は、減少傾向が比較的緩やかな一方、坂本、臼井の2地区は、他の地区より顕著となっており、これらの地区では「自然減」の影響がより大きくなっていると考えられます。また、原市、安中の2地区は、他の地区より外国籍住民が多く、増加傾向となっています。

## 2-2 暮らす人・働く人の声（各種アンケート調査結果）

### ◆「住みやすい」が高く、その理由は「自然が豊か」「自然災害の心配が少ない」

中学生、高校生、転入者<sup>※1</sup>のいずれも、安中市は「住みやすい」が高く、その理由として「自然が豊か」「自然災害の心配が少ない」が高くなっています。

### ◆中高生は、「住みやすい」けれど、将来は「市外に住みたい」「市外で働きたい」

中学生、高校生のいずれも「住みやすい」が高いものの、将来は「市外に住みたい」「市外で働きたい」が高くなっています。

### ◆「住みにくい」理由は「休日等を楽しめる場所」「買い物」「交通の便」

安中市が「住みにくい」と回答した理由として、高校生は「休日等を楽しめる場が充実していない」「買い物が不便」「交通の便が悪い」の3項目が高く、これらは転入者や、市内企業従業員、安中市職員<sup>※2</sup>による評価も比較的低くなっています。

### ◆魅力は「高崎や軽井沢が隣接」「新幹線駅」

市内企業従業員、安中市職員のいずれからも、本市の魅力として、高崎市や軽井沢町が隣接している立地環境や、北陸新幹線安中榛名駅からの軽井沢方面や東京圏へのアクセシビリティなどが指摘されています。また、それらが十分に活用されていないことの指摘が複数みられます。

### ◆「よく知らない」状況や「魅力発信の不足」の指摘

市内企業従業員、安中市職員のいずれからも、「安中市をよく知らない」ことを改めて認識したとの気づきや、本市の魅力の発信が不足しているとの指摘などが複数みられます。

※1 中学生アンケート調査：市内の中学生（生徒会役員）を対象として令和5（2023）年度にインターネットにて実施。回答者数n=20名。

高校生アンケート調査：市内の高校に通う2年生の生徒（安中総合学園高校、松井田高校、新島学園高校）を対象として令和5（2023）年度にインターネットにて実施。回答者数n=360名（住みやすさ編）、245名（行政の取組編）。

転入者アンケート調査：「安中市住まいりー奨励金」（令和5（2023）年6月まで）または「安中市マイホーム取得支援金」（令和5（2023）年7月から「安中市住まいりー奨励金」を拡充）交付者（住宅の新築・購入を伴う市外からの移住者）を対象として令和5（2023）年度にインターネットにて実施。回答者数n=20名。

※2 企業アンケート調査：信越化学工業株式会社群馬事業所、東邦亜鉛株式会社安中製錬所の従業員を対象として令和6（2024）年6月に調査票の配布・回収にて実施。回答者数n=75名。

安中市職員アンケート調査：安中市職員を対象として令和6（2024）年6月に調査票配布・回収にて実施。回答者数n=74名。

## 2-3 策定委員会からの意見

策定委員会\*において、移住・定住の推進につながる具体的なアクションについて検討を行いました。

これらの成果をアクションプランとして本プランに反映させます。

第1回策定委員会  
(アイデア出し)  
会場：あんなかスマイルパーク



▲事務局による説明



▲市長（左端）も参加

第2回策定委員会  
(中間とりまとめ・発表)  
会場：旧九十九小学校



▲とりまとめ作業



▲成果発表

第3回策定委員会  
(各プランとりまとめ・発表)  
会場：碓氷川熱帯植物園



▲コーディネーターによる説明



▲成果発表

\*策定委員会：正式名称は「安中市移住・定住アクションプラン策定委員会」。本プラン策定のために、公募市民、市内企業従業員、関係機関・団体職員、学識経験者、市職員などで構成する組織。詳細は資料編に名簿と実施状況を掲載。

また、本プラン策定アドバイザーである高崎商科大学 熊倉浩靖特任教授の協力のもと、同大学経営学科2年生21名による3つの学生ワーキンググループから、移住・定住の推進に向けた具体的な提案を受けました。

これらの提案を本プラン策定の参考とします。



提案内容の発表  
(秋間地区グループ)  
会場：後閑山荘



(磯部地区グループ)



発表後、策定委員会ワークショップ  
に参加 (臼井地区グループ)

## 2-4 重視すべき視点（課題）

人口等の状況、各種アンケート調査結果による「暮らす人・働く人の声」、策定委員会からの意見、さらに総合計画との整合性などを踏まえつつ、本プランで重視すべき視点を以下に整理します。

- ◆市全体の人口減少が進む中、「自然減」の影響が大きい地区の人口減少がより進行していることなど、地区によって人口動態や人口構成などが異なることへの留意が必要
- ◆「住みやすい」理由となっている「自然が豊か」「自然災害の心配が少ない」について、イメージと現状とのギャップや地区による違いを念頭に、本市の産業や文化を踏まえた視点でさらに磨くことが必要
- ◆「住みにくい」理由となっている「楽しめる場所」「買い物」「交通の便」について、どう捉え、対応できるか具体的な方策の検討が必要
- ◆「高崎や軽井沢が隣接」「新幹線駅」の魅力を活かし、「住みやすい」につなぐための具体的な方策の検討が必要
- ◆安中市に暮らす人、通学・通勤する人、さまざまな面で安中市にかかわる人など多様な「市民」が「安中市の魅力を知る」ことを促す取組が必要



これらの視点を踏まえて、本プランの展開を図ります。

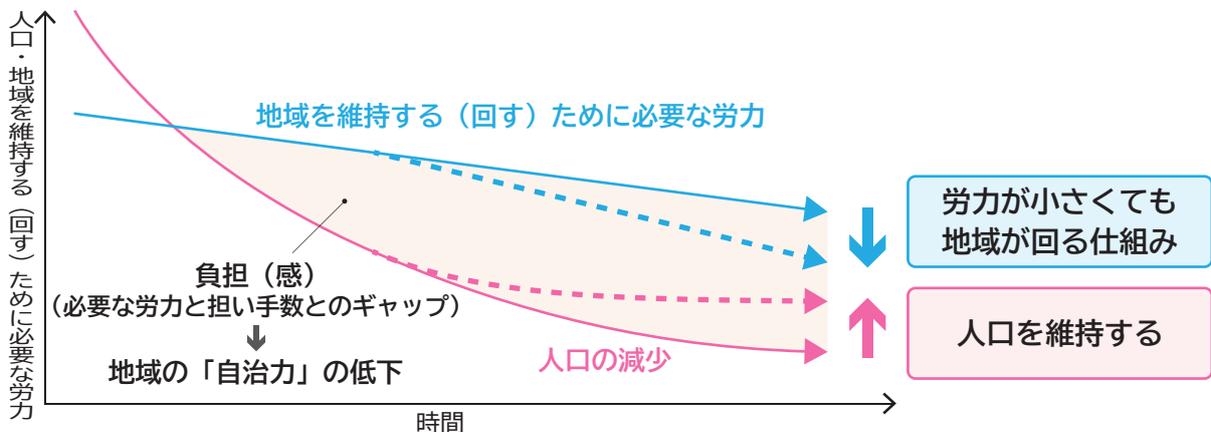
## 第3章 アクションプラン

### 1 アクションプランが目指す方向性（ビジョン）

地域の力を活かし、より暮らしやすく、暮らす楽しみにあふれるまちづくりで、現在、本市で暮らしている人と、まだ暮らしたことのない人や、かつて暮らしていた人が、「暮らし続けたい」「暮らしたい」と思えるようにするために、人口減少を踏まえた地域の仕組みの維持を目指します。

人口の減少傾向が続く中であっても、私たちの暮らしの基盤となる地域の仕組みを維持するためには、必要となる労力と、実際に担える労力との差を小さくすることが必要です。これまでと同じ労力を必要とする一方で、労力を担う地域住民が減少する状況では、地域住民の負担（感）の増大と、地域の「自治力」（地域の状況に応じて必要な手立てを企画・実行する力）の低下が懸念されます。

必要となる労力と、実際に担える労力との差を小さくし、地域の仕組みの維持を目指すために、人口の維持による労力の担い手確保と、労力が小さくても地域が回る仕組みづくりを同時に進めることが必要と考えられます。



資料：「関係人口連続セミナー2021「関係人口」をいかに地域づくりに活かすのか」（徳島大学 田口太郎）を参考に作成

そこで、本プランが目指す方向性（ビジョン）として以下を掲げ、アクションの設定と推進を図ります。

**「人口の維持」と「労力が小さくても地域が回る仕組み」により  
地域の仕組みを維持する**

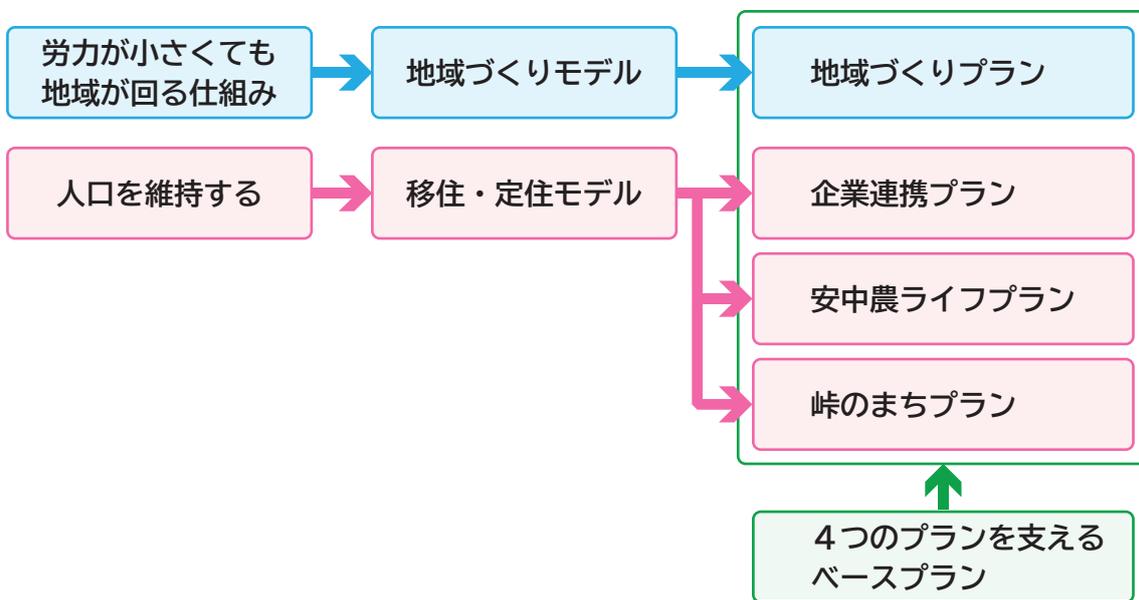
## 2 ビジョンの実現に向けた「2つのモデル」と「4つのプラン」

本プランのビジョンで掲げる「人口の維持」と「労力が小さくても地域が回る仕組み」のために、それぞれに対応する2つの「モデル」を設定します。

また、2つのモデルを具体的なアクションとして展開するために、4つの「プラン」を設定します。

4つのプランは、本市の特性を踏まえるとともに、各種アンケート調査結果などを踏まえて設定し、各プランの具体的な内容は策定委員会で検討して設定します。

さらに、4つのプランの実践的な展開を基盤として支えるベースプランを設定します。



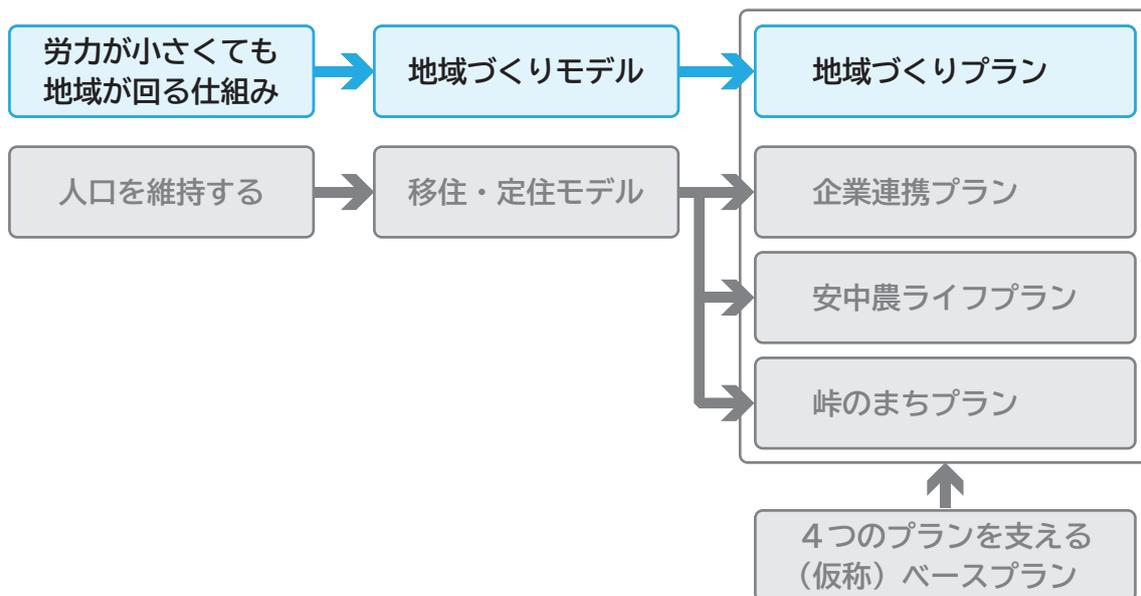
## モデル 地域づくりモデル

# 1 「労力が小さくても地域が回る仕組み」をつくる

### 地域づくりモデルの方向性

「労力が小さくても地域が回る仕組み」をつくるために、**地域住民どうしがつながりやすく、それぞれの力を集めやすくすることが必要**です。また、そのための基盤として、**地域住民どうしの顔が見えやすい「まちのまとまり」を確保・維持**し、これまでよりも効率的・効果的に地域住民の力と地域の機能が活かされる必要があります。

これによって「労力が小さくても地域が回る仕組み」を実現させ、人口の推移や社会の変化に柔軟に対応し、より暮らしやすく、暮らす楽しみにあふれるまちづくりで、「暮らし続けたい」「暮らしたい」と思える魅力の向上を図ります。





## プラン1 地域づくりプラン

本市では、豊かな自然環境や多様な土地利用などを背景に、地域それぞれの特性に基づく多様な文化や暮らし方が育まれています。しかし、市全体で人口減少と高齢化が進む中、地域によってその状況が異なっており、地域それぞれのコミュニティの維持が危惧されています。地域それぞれの特性を踏まえ、地域の状況に合わせた「暮らし続けられる」地域づくりが必要となっています。

地域それぞれの環境や文化、これまでの暮らし方やコミュニティのかたちを生かし、それぞれの状況に合わせて「より暮らしやすく」、将来にわたって「暮らし続けられる」地域づくりを、住民が主体となって進めやすくなるよう、地域づくりの仕組みの見直しを図ります。また、地域づくりの考え方やさまざまな方法について、多様な市民が学び、地域課題を「自分ごと」として考え、解決につなげる仕組みづくりと、各地域の公民館をはじめとする公的な施設や、民間の施設等の活用による拠点化を図ります。

### アクションプラン

アクション	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
<b>地域づくり協議会の設立</b> ○地域で活動するさまざまな個人や団体をつなぎ、地域課題の解決や暮らしやすい・移住しやすい地域づくりに取り組む地域自治組織（プラットフォーム）として、各地区公民館等を拠点とする「(仮称)地域づくり協議会」の設立を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モデル地区の選定と協議会の設立</li> </ul>
<b>交流の機会・拠点づくり</b> ○地域住民や移住者が交流する機会とその拠点づくりに取り組みます。また、交流の拠点として、公民館等の公的施設や機能、市内事業者と連携した民間施設の活用等による多様な拠点づくりを促進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流機会の設定</li> <li>・ 民間施設を含む交流拠点の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流機会の充実</li> <li>・ 交流拠点の設定</li> <li>・ 民間施設との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流機会の充実</li> <li>・ 交流拠点の拡充</li> <li>・ 民間施設との連携拡充</li> </ul>
<b>地域で課題を解決し合う仕組みづくり</b> ○地域住民のスキルを活かしたセミナーなどの学びの機会を設けるとともに、学びをそれぞれの暮らしや地域課題の解決につなげる仕組みをつくりまします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存の学びの機会の活用方策の検討</li> <li>・ 地域課題の解決につなげる仕組みの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存の学びの機会の活用</li> <li>・ 地域課題の解決につなげる仕組みの構築</li> <li>・ モデル地区での試行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学びの機会の充実</li> <li>・ 地域課題の解決に向けた取組の実践</li> <li>・ モデル地区の拡大</li> </ul>

アクション	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
<b>多様な手段による情報の受発信</b> ○市の広報紙等による従来の情報発信に加え、SNS、交流の拠点、誰もが目にしやすい場所への掲示など、多様な機会や手段による誰も取り残さない情報の受発信を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報受発信の現状把握</li> <li>・多様な手段の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな手段の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな手段の評価・検証</li> <li>・情報受発信体制の充実</li> </ul>

## 策定委員会によるプロジェクト提案

### 花咲く交流プロジェクト

◇目的:「交流を中心とした花が咲く」ように、移住者によるアクションがきっかけとなって、地域住民同士の顔が見えやすく、つながりやすく、それぞれの力を集めやすい地域をつくる

#### ◇対象

- ・初期は安中市に移住してきた人を中心とし、少しずつ対象を広げていく

#### ◇内容

- ・移住者同士が安中市での生活に関する悩みを話し、不安を共有し、解決を図れる場・機会を設定する
- ・公民館等の公的な施設ではなく、市内のカフェや飲食店などの民間施設を活用することで、より話しやすい環境づくりを図る
- ・場・機会を活用し、地域住民を含めたコミュニケーションを図れるようにする
- ・地域での生活に関する情報や活動についての情報を広報誌などで地域に情報発信し、周知を図る
- ・情報発信において、誰もが“同じ水準”で情報を受け取り、共有でき、わかりやすいことを重視する
- ・子ども連れでも参加しやすくする

#### ◇ルール

- ・参加者を固定せず、参加の強制をしない

## 市の役割・市民の役割



市の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民が地域づくりに関わりやすい環境の整備に努めます。</li> <li>○地域で活動する個人や団体がつながる機会の充実を図ります。</li> </ul>
市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の身近な課題を「自分ごと」として考え、解決に取り組んでみましょう。</li> </ul>

### ◆各種アンケート調査結果等で示されたこと

- ・中高生、移住者のいずれも安中市は「住みやすい」
- ・地域住民同士の人間関係がよい
- ・市職員の「郷土愛」の醸成が必要
- ・車の運転ができなくなった時の生活が不安
- ・市職員で組織される「地域活動応援隊」の活用
- (買い物、通院など)

## ◆学生ワーキンググループからの提案

### ○「秋間みのりが丘」の公園活用／秋間地区グループ

#### 〈秋間地区の現状〉

- ・自販機が1つしかない
- ・コンビニがない
- ・せっかくの公園が活かせていない

#### 〈主なターゲット〉

- ・小さい子ども連れの親子等の比較的若い世代

#### 〈アピールポイント〉

- ・空気がきれい、自然が豊か、きれいな公園、道（道路）がきれい、新幹線で実家に即帰宅可、新幹線でおでかけ可（遠出）など

#### 〈提案～今あるものをさらに生かそう～〉

- ・パノラマパークへの遊具設置（滑り台、ブランコ、サッカーゴール等）
- ・北陸新幹線安中榛名駅前施設（旧コミュニティプラザ）に無人販売のコンビニ設置
- ・各番地にある公園を巡るスタンプラリーやクイズラリーの実施
- ・季節ごとに子ども向けイベントの実施

### ○磯部の強化／磯部地区グループ

#### 〈観光を強化〉

##### ①磯部せんべい作り体験をしよう

- ・磯部せんべいがどうやって作られるのかを学ぶ
- ・自分好みの磯部せんべいが作れる
- ・お絵描きせんべいのようなものができたらいい

##### ②日帰り温泉を強化しよう

- ・地域住民の定住にもつながる
- ・温泉スタンプラリーでいろいろな温泉を体験する
- ・まちを浴衣で歩き回れるような雰囲気づくり

##### ③観光施設を増やそう

- ・昼も夜も楽しめる場所にする
- ・喫茶店（磯部せんべいを提供、観光客が休める場所）
- ・居酒屋（仕事帰りの人が立ち寄りやすい）

#### 〈定住の強化〉

##### ①スーパーマーケットを建てよう

- ・「買いだめしなきゃ」「買い物できる場所がない」「高崎まで行くのは面倒」といった地域住民の悩みを解決する

##### ②いそべ野菜の直売場の強化

- ・特製チーズなど魅力的な品物が多くある
- ・料理を提供できる場所をつくり、コミュニケーションの場にする
- ・直売所では販売していないものを販売する場所を併設する

### ○臼井地区についての提案／臼井地区グループ

#### 〈課題〉

##### ①地域面からの課題

- ・交通手段が限られている
- ・移住・定住を勧める環境づくりの活性化

##### ②観光面からの課題

- ・宿泊施設が少ない
- ・PRされるべき情報がしっかりとPRされていない

#### 〈解決策〉

##### ①廃校を宿泊施設に（地域独自の文化や自然を生かした体験）

- ・文化交流と地域理解のための集客
- ・校舎内の雰囲気や、安中市の魅力ある自然、地域の人と交流できる体験プログラム
- ・外国人観光客に人気
- ・軽井沢にもアクセスが良好
- ・軽井沢より宿泊料を安く設定

##### ②2次元コードを使用したスタンプラリー

- ・主な観光地に2次元コードを設置し、一定数集めると道の駅で使えるクーポンを発行
- ・地域の特産品や観光スポット、安中市の知られざる魅力を知ってもらう
- ・町を回遊することで地元の飲食店や土産物店、道の駅などの売り上げが向上し、経済効果につながる

##### ③体験ツアー

- ・富岡市と安中市の魅力を楽しみながら歴史ある建物や自然、地域文化を体験できる（一泊二日程度の）ツアー
- ・例「富岡製糸場→釜めし昼食→妙義湖・碓氷湖→めがね橋→鉄道文化むら→碓氷峠コテージ宿泊・峠の湯→廃線ウォーク」
- ・興味を持った人には、空き家バンクや子育て支援などを紹介

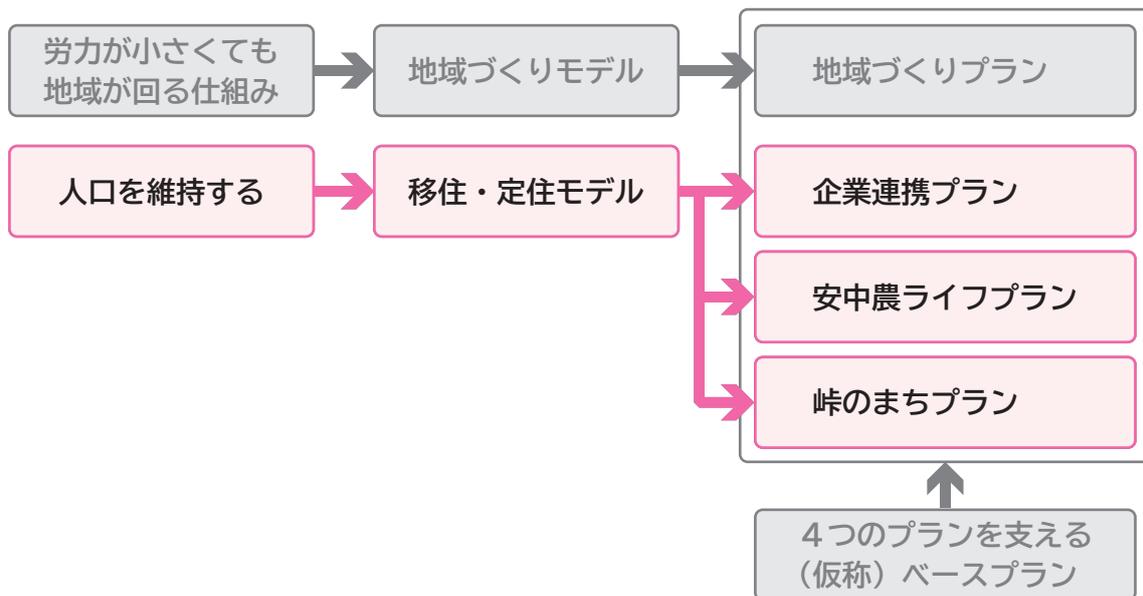
# モデル 移住・定住モデル

## 2 「人口を維持」する

### 移住・定住モデルの方向性

「人口を維持」するために、本市に「暮らしたい」（移住）、「暮らし続けたい」（定住）という思いを実現につなげることが必要です。そのためには、これまで市民が育み、重ね、つないできた地域の力や資源を、あらためて文化や産業をはじめとする多分野で活かし、より「暮らす」魅力と未来への可能性に満ちたまちづくりの仕組みをつくる必要があります。

これによって、より多くの人の「暮らし続けたい」「暮らしたい」を実現させ、多様な価値観や社会の変化に柔軟に対応し、将来にわたって暮らしやすく、暮らす楽しみにあふれるまちづくりを図ります。



## プラン2 企業連携プラン



本市では基幹産業である化学工業を中心とする製造業をはじめ、多様な企業が市内で活動し、多くの方が働いており、まちづくりに欠かせない「市民」としてまちの活力創出の一翼を担っています。しかし、市内企業やそこで働く人々と地域との関係づくりはこれまであまりされてきませんでした。

市内企業やそこで働く人々と地域がつながる機会の創出を図り、地域課題の解決やまちづくりにおける連携を推進するとともに、「働く」場所としてだけでなく「暮らす」場所としての本市の魅力の発信と共有を図ります。

### アクションプラン

アクション	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
<b>企業と地域の連携体制の構築</b> ○地域課題の解決やまちづくり等において、市内企業と地域の連携を進めるための体制構築を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携体制の検討・構築</li> <li>・連携事業の試行</li> <li>・連携事業のPR・情報発信の開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携事業の開始</li> <li>・より多分野での連携の検討</li> <li>・連携事業のPR・情報発信の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携事業の拡充</li> <li>・連携事業のPR・情報発信の充実</li> </ul>
<b>市内企業と地域の共助の促進</b> ○市内企業の持つスキルや施設、設備、人材等を活かした地域課題解決への協力、従業員の各種研修における地域の活用等、市内企業と地域が共に協力し合う取組を促進します。			
<b>安中市で暮らす魅力を実感できる機会の創出</b> ○市内企業との連携により、安中市で暮らす魅力を実感できる機会の創出に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内企業職員と市民、市職員によるワークショップによる機会創出の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試行事業実施</li> <li>・試行結果の評価・検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施</li> <li>・事業の評価・検証</li> </ul>
<b>安中市で暮らす魅力のPRの推進</b> ○市内企業の従業員を対象に、安中市で暮らす魅力をPRする機会を創出し、移住・定住の促進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内企業での市職員によるPR機会の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR機会と内容の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR機会と内容の拡充</li> </ul>

## 策定委員会によるプロジェクト提案

### 「地元を知ろう」バスツアー企画ワークショップ！～快疎\* あんなか～

◇目的: 人と人をつなぎ、企業をつなぐ～地域住民、市内企業に勤務する人と市職員が安中市の魅力について改めて深く知り、考える機会をつくり、若い世代の移住・定住の促進に活かす

#### ◇対象

- ・地域住民、市内企業に勤務する人と市職員

#### ◇内容

- ・市内企業の新規採用者や若手従業員が「地元」をより深く知ることができるバスツアーを、地域住民、市内企業に勤務する人と市職員によるワークショップによって企画・実施する
- ・ワークショップではフィールドワークも想定する
- ・企画したバスツアーの実施時に、ワークショップ参加者が運営者として関わることを想定した具体的なプログラムとする
- ・ワークショップの開催から企画の提案について、まず行政が主体となって参加者の連携を促進する
- ・バスツアーを企画することを通して、以下を図る
  - 企画参加者(地域住民、市内企業に勤務する人、市職員)の交流促進を図る
  - 企画参加者それぞれが、安中市の良さを知ることができるようにする
  - 安中市の歴史を知ることができる
  - 安中市内の公共交通を活用する

#### ◇ルール

- ・公共交通を利用する
- ・体験型ミッションや「食べる」を含むチェックポイントを設ける
- ・ツアー考案者(参加者)が公共交通による移動時間などの“隙間時間”を楽しむ(侍コスプレなど)

\*快疎: 開放的で人口が密でない疎である空間「開疎」に、他にはない価値が加わり、空間的にも精神的にもより安定した快適な状況のこと(「ぐんま快疎化リーディングプラン」群馬県より)。

## 市の役割・市民の役割



市の役割	○市内企業やそこで働く人と地域との交流・連携の機会の充実と促進を図ります。 ○市内企業やそこで働く人への情報提供に努めます。
市民の役割	○市内企業の活動や提供する商品・サービスなどに関心を持ちましょう。

### ◆各種アンケート調査結果等から読み取れるキーワード

- ・外国人就労者を積極的に受け入れ定住につなげる
- ・通院に便利
- ・ノウハウは民間企業の方が持っている
- ・高崎や軽井沢に近い
- ・自然災害が少ない
- ・市内在住の学生の採用に力を入れる



## プラン3 安中農ライフプラン

本市の「秋間梅林」は「ぐんま三大梅林」のひとつに数えられ、果実としてだけでなく、早春を彩る花が人気を博しています。また、本市は畑作に適した農地が豊富で、さまざまな作物が栽培されていますが、生産農家の高齢化などを背景に担い手が減少しており、農地等の維持と技術の継承など、早急な対応が必要となっています。一方、環境問題や食への関心の高まりなどを背景に、より魅力的で地域特性を活かした暮らしの場として、都市的な暮らしと農業の接点を活かした「農のある暮らし」の基盤が求められています。

都市圏とつながる交通利便性の高さと、豊かな農業基盤が共存する本市の特性を見据え、**家庭菜園や農業体験、農産物を通じた食育や健康づくりの促進**など、都市的な暮らし方や働き方と農業の接点を本市独自の「農のある暮らし」の基盤として活かし、それぞれの希望にあった「農のある暮らし」の実現を促進します。また、「農のある暮らし」を通して、地域でこれまで受け継がれてきた**農地等の生産基盤と技術の継承**や、**新たな視点を取り入れた魅力ある農業の展開、事業の拡大等**を促進します。

### アクションプラン

アクション	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
<b>「農のある暮らし」のPRの推進</b> ○家庭菜園など、安中市での「農」を取り入れた暮らしの魅力と方法について、市民や移住希望者へのPRを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係団体との調整</li> <li>ロードマップの検討・作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践事例調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PR冊子作成・情報発信</li> </ul>
<b>新規就農者の確保と育成の促進</b> ○関係機関との連携により、新規就農者や希望者の確保や育成を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者や希望者の支援体制の充実</li> <li>支援に関する情報発信の充実</li> <li>関係機関との連携の強化</li> </ul>		
<b>農業の魅力や可能性の情報発信</b> ○農業の魅力や可能性についての情報発信に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業の魅力等に関する情報発信の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の充実</li> </ul>
<b>新たな農業体験プログラムの作成</b> ○宿泊と農業体験を組み合わせたプログラムの作成と担い手の確保、実践に向けた支援を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの検討</li> <li>担い手の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの実践</li> <li>プログラムの評価・検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの拡充</li> </ul>

## 策定委員会によるプロジェクト提案

### 梅×宿泊＝梅泊

◇目的: 梅栽培の農業体験と宿泊を組み合わせた「梅泊」の提供により、体験を移住へつなげる

◇対象

- ・初期は安中市に移住してきた人とし、将来的には県外のファミリー層

◇場所: 秋間地区

◇内容

- ・農業体験として、梅の収穫や加工などを行う
- ・宿泊施設として、秋間梅林内の古民家を活用する
- ・古民家は DIY で宿泊施設として改装する
- ・宿泊施設ができるまでは、磯部温泉への宿泊も想定する
- ・プロジェクトを通じて農家と働き手、農業者同士などを結びつける「農業マッチングプラットフォーム」の立ち上げを目指す
- ・プロジェクトを通じて移住者同士のコミュニティの形成を図る
- ・プロジェクト実施後に参加者アンケートを実施し、ニーズや改善方法を模索する

## 市の役割・市民の役割



市の役割	<ul style="list-style-type: none"><li>○「農のある暮らし」を体験できる機会の充実を図ります。</li><li>○市民等による農業を活かした地域づくり活動への支援を推進します。</li></ul>
市民の役割	<ul style="list-style-type: none"><li>○地域の農業や農産物に関心を持ちましょう。</li><li>○農地の適切な管理や集積・集約に協力しましょう。</li><li>○「農のある暮らし」の体験機会や情報を活用し、生活に取り入れてみましょう。</li></ul>

### ◆各種アンケート調査結果等から読み取れるキーワード

- ・移住者にとって安中市は「自然が豊か」「自然災害が少ない」「水がきれい」で「住みやすい」
- ・転入者の多くは就学前の子どもがいる親子世帯
- ・適度に田舎、都心へのアクセス良好
- ・土地取得の条件が良い
- ・新鮮でおいしい野菜がある
- ・農業を始める人達への支援が必要
- ・梅林、竹林

## プラン4 峠のまちプラン



本市は古くから交通の要衝として知られており、特に碓氷峠周辺地域は、日本の近代化と地域の産業や文化に大きな役割を果たしてきた鉄道施設や、鉄道以前の通行の要であった関所跡、江戸時代からの人々の往来の歴史をしのぶ坂本宿など、貴重な資産が集積しています。また、妙義山をはじめとする奇岩の山々の独自の景観や登山等のレクリエーションの地としても知られています。JR信越本線横川駅周辺はそれらを楽しむ拠点として機能しており、それを踏まえた「道の駅」の構想や、碓氷峠鉄道施設群の世界遺産登録に向けた動きなど、地域資源の活用が検討されています。

古来より人やモノが行き交い、さまざまな交流の場となってきた「峠のまち」の特性を活かし、地域で暮らす人や地域にかかわる人による多様なコミュニティの創出を促進するとともに、「峠のまち」に暮らす独自性を魅力として発信します。また、「峠のまち」の交流の歴史を踏まえ、地域課題の解決につながる取組への発展を促進します。

### アクションプラン

アクション	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
<b>「峠のまち」の魅力発信</b> ○JR信越本線横川駅周辺は道の駅の整備が計画されているため、「峠のまち」をはじめ、本市の暮らしの魅力発信を推進します。	・「暮らしの魅力発信」のための方策検討	・魅力発信の体制整備	・「峠のまち」の魅力発信の開始
<b>定期的なマルシェの開催</b> ○坂本地区等における定期的なマルシェの企画・実施を通じて、起業等に組み込む人に活動の場を提供するとともに、地域住民、移住者・移住希望者を含めたコミュニティの場としての活用を図ります。また、富岡市、下仁田町等との広域連携による開催を推進します。	・開催に向けた体制構築 ・広域連携に向けた調整	・試行開催 ・試行結果の評価・検証	・本開催 ・本開催の評価・検証
<b>交流と起業の拠点の整備</b> ○地域住民や移住者、移住希望者、地域を訪れる人等の多様な交流と、起業・創業等を支援する拠点となる場の整備に取り組めます。	・整備検討に向けた体制構築 ・整備内容の検討	・拠点の整備	・拠点の運用開始
<b>空き家情報の集約と魅力の発信</b> ○坂本地区等の空き家情報の集約により、効果的な情報化を図るとともに、「峠のまち」で暮らす魅力の発信に努めます。	・坂本地区等の空き家情報の集約・情報化の検討 ・「峠のまち」で暮らす魅力の情報化検討	・空き家情報の発信 ・暮らしの魅力の情報発信	・空き家情報の充実 ・暮らしの魅力の情報発信の拡充

## 策定委員会によるプロジェクト提案

### 峠コミュニティプロジェクト

◇目的:「起業したい人、やりたいことがある人」の実現をバックアップするとともに、起業等の経験者や地域住民など多様な人がつながるコミュニティをつくることで、チャレンジしやすい仕組みや、それを目当てに全国からチャレンジャーが集まる場所(拠点)をつくる

#### ◇対象

・起業したい人。やりたいことがある人。臼井・坂本地区に住んだことがある人など、地区を応援したい人

#### ◇場所:坂本宿

#### ◇内容

・「起業したい人、やりたいことがある人」のチャレンジの場・機会(①定期的なマルシェの開催、②常設の活動拠点の整備)を設定。これをきっかけに、坂本宿に「商店街」が生まれることを目指す

・(臼井坂本地区に過去に住んでいて)応援したい人が、直接参加しなくても関わることができる仕組みをつくる

・臼井・坂本地区の地域住民・松井田地区の移住者、安中市内の経営者による協議会を組織し、プロジェクトを運営する

##### ①定期的なマルシェの開催

・本プロジェクトをきっかけに起業した人だけでなく、既に店を持っている人や、さまざまなスキルを持つ人、“コト体験”を提供できる人の出店を想定(飲食、自作商品、稲刈り体験、ジビエの解体から調理、絵の描き方教室、フリーマーケットとしての活用など)

・参加条件を設定し、マルシェのブランド価値を高める

・マルシェの際は歩行者天国にして、ゆっくりまち歩きできるようにする

・年2回(春・秋)の開催を目指す

・マルシェ開催後にニュースレター(広報誌的なもの)を発行(地域のさまざまな情報の広報も兼ねる)

##### ②常設の活動拠点の整備

・「起業したい人、やりたいことがある人」の相談対応や、同様の人同士、起業経験者、地域住民、地域事業者などがつながる場として整備する

・コワーキングスペースとしての活用による「共働・共創」のきっかけづくりの場とする

・観光客や地域に関心を持つ人や地域住民をはじめ、誰もが気軽に集まり、立ち寄ることによるさまざまな人々のコミュニケーションの場とする

#### ◇ルール

・駅から徒歩でアクセスできること、「峠のまち」としてこれまで人々が行き交ってきた歴史・文化を活かす

・歴史的な背景を踏まえ、「よそ者」を歓迎する

## 市の役割・市民の役割



市の役割	○マルシェの開催等を支援し、地域の賑わいを創出します。 ○「峠のまち」とその暮らしの魅力の発信に努めます。
市民の役割	○「峠のまち」の歴史や文化に関心を持ち、学び、情報を発信しましょう。 ○地域の特性を活かした取組やマルシェなどのイベントに関心を持ちましょう。

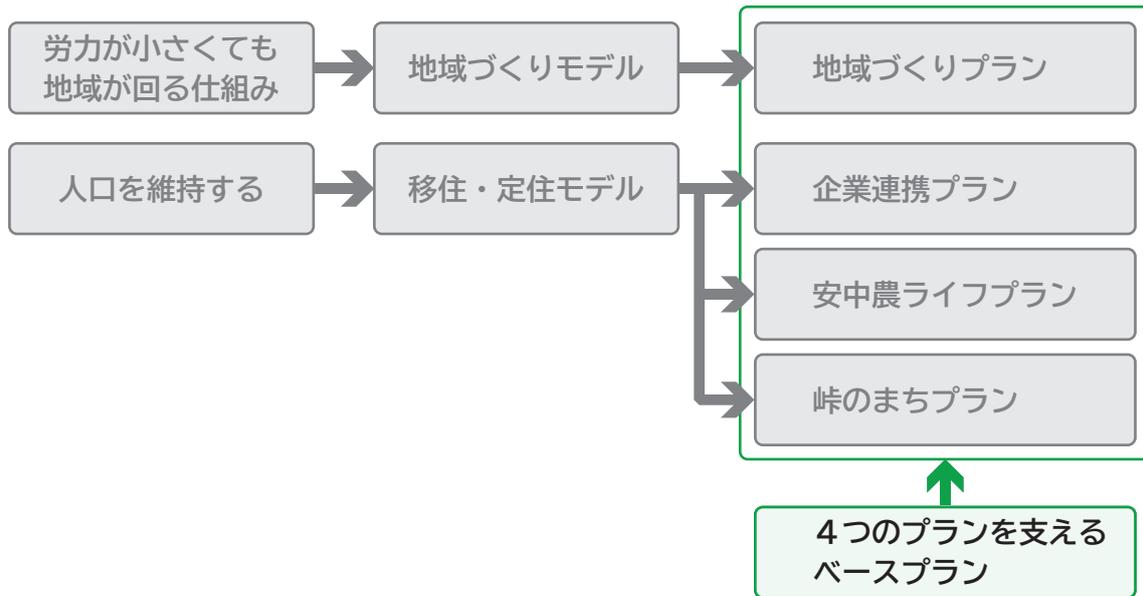
### ◆各種アンケート調査結果等から読み取れるキーワード

- ・碓氷峠鉄道文化むら、鉄道遺産
- ・峠や街道・交通の歴史

- ・妙義山の自然を活かす
- ・坂本、臼井の2地区は、特に人口の減少傾向が顕著

### 3 「4つのプラン」を支えるベースプラン

「暮らし続けたい」「暮らしたい」の実現に向けた4つのプランの実践的な展開を基盤として支えるベースプランとして、地域を活かし、より暮らしやすく、暮らす楽しみにあふれるまちづくりを効果的・効率的に進めるための機能や体制を整備します。



## ベースプラン

## アクションプラン

アクション	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
<b>ホームページ※のリニューアル</b> ○移住・定住の情報を一元化し、デザイン面を含め使いやすさを向上させます。	・ 現行HPの充実（移住者インタビュー掲載）	・ HPリニューアル検討	・ HPリニューアル検討
<b>地域活動応援隊の活動強化</b> ○市職員で組織する応援隊の質・量両面の強化を図ります。	・ 応援隊の養成（講座開催）	・ 応援隊の養成（講座開催）	・ 応援隊の地域づくり協議会設立活動への派遣
<b>移住・定住コーディネーターの育成・配置</b> ○国の制度を活用し、地域おこし協力隊員などによる移住者支援の充実を図ります。	・ コーディネーター配置（1名）  ・ 地区担当コーディネーター配置（1名）	・ コーディネーター配置（2名）  ・ 地区担当コーディネーター配置（1名）	・ 独立したコーディネーター配置 ・ コーディネーター配置（1名） ・ 地区担当コーディネーター配置（1名）
<b>移住・定住プラットフォームの構築・運営</b> ○不動産等の学識経験者や移住者等の参加による移住・定住促進のプラットフォームとなる協議会を構築・運営します。	・ 体制構築	・ 運営検討	・ 移住相談フローの拡充
<b>移住相談窓口の開設</b> ○行政だけでなく、民間と連携した移住相談窓口を開設します。	・ 民間移行の検討	・ 民間移行予定地を選定し、プレ開催	・ 民間移行への準備
<b>地域住民主体の支え合いの促進</b> ○地域住民が主体となって、移動や買い物等の暮らしの支え合いを行う活動の促進を図ります。	・ 「地域による支え合い」モデル地区の選定	・ モデル地区の周知・試行	・ 実施地区の拡大

※安中市移住・定住応援ナビ「あんなか日和」

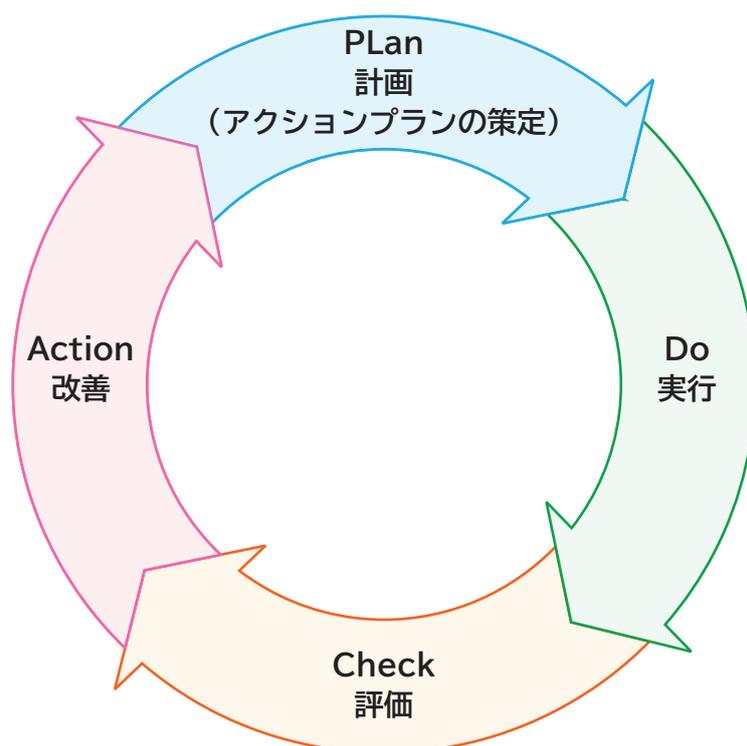
## 市の役割・市民の役割

<b>市の役割</b>	○移住希望者のニーズに的確に応えられる体制を整備します。
<b>市民の役割</b>	○地域の魅力を積極的に発信しましょう。 ○市が実施する移住・定住の推進に関する取組に協力しましょう。

## 第4章 推進体制

本プランの推進にあたっては、策定委員会の参加メンバーなどの参画を得ながら、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）を一連のサイクル（PDCA サイクル）に乗せた検証により、事業の見直しや改善を図ります。

また、企業や大学、周辺自治体など、さまざまな主体との連携を強化し、事業の質・量の向上やさらなる事業展開を推進します。



## 資料編

### アクションプラン策定経過

令和6年

月日	項目	内容	備考
5月	市内企業ヒアリング	○従業員の居住状況、アクションプランについて など	2企業を対象に実施
6月	市内企業アンケート	○安中市の居住に関するアンケート調査	回答者2企業計75名
6～7月	安中市職員アンケート	○安中市の居住に関するアンケート調査	回答者74名
8月8日	第1回 安中市移住・定住 アクションプラン策定委員会	○委嘱状の交付 ○会長、副会長の選任 ○プラン愛称決定 ○説明（事務局） ○ワークショップ ○まとめ など	会場 あんなかスマイルパーク （原市）
10月8日	第2回 安中市移住・定住 アクションプラン策定委員会	○プラン愛称発表 ○説明（事務局） ○ワークショップ ○まとめ など	会場 旧九十九小学校 （松井田町下増田）
12月4日	学生ワーキンググループからの 提案発表会	○提案発表 （高崎商科大学学生） ○ワークショップ ○まとめ など	会場 後閑山荘 （下後閑）
12月20日	第3回 安中市移住・定住 アクションプラン策定委員会	○説明（事務局） ○ワークショップ ○まとめ など	会場 碓氷川熱帯植物園 （原市）

## 安中市移住・定住アクションプラン策定委員会名簿

NO.	氏名	所属・区分等	班※
1	武井 正臣	安中市移住・定住促進協議会(あんなか暮らしサポート隊)	4
2	三田 益雄(会長)	安中市移住・定住促進協議会(あんなか暮らしサポート隊)	2
3	能代 紘平	安中市地域おこし協力隊	4
4	黛 若葉	安中市地域おこし協力隊	2
5	田村 聖志	安中市地域おこし協力隊	-
6	平間 麻衣子	安中市地域おこし協力隊	3
7	金子 亜希子	安中市移住・定住促進協議会(あんなか暮らしサポート隊)	1
8	塚越 都(副会長)	安中市移住・定住促進協議会(あんなか暮らしサポート隊)	2
9	伊藤 秀嗣	公募市民	3
10	神津 治生	公募市民	3
11	関川 貴子	公募市民	1
12	上村 佑允	公募市民	1
13	伊藤 利佳	公募市民	3
14	福田 克行	公募市民	2
15	鈴木 ゆき	公募市民	4
16	須藤 修司	公募市民	3
17	中神 佳那子	公募市民	1
18	生方 純二	信越化学工業(株)群馬事業所	3
19	高橋 拓巳	高崎行政県税事務所	4
20	上原 憂己	ぐんま暮らし支援センター	3
21	佐々塚 麻里菜	JICA群馬デスク	1
22	丸澤 裕美	安中市役所 市民課	1
23	時澤 敢多	安中市役所 商工課	3
24	長尾 京	安中市役所 農林課	4
25	木村 朋子	安中市役所 建築住宅課	2
26	大林 吉美	安中市教育委員会 生涯学習課	4
27	佐藤 千花	新島学園短期大学	2
28	中嶋 慈瑛	新島学園短期大学	1
29	堀江 泰成	新島学園短期大学	1
30	前田 彩名	新島学園短期大学	2

### ○ファシリテーター(進行役)

NO.	氏名	所属・区分等	班※
1	野川 裕平	安中市役所 資産活用課	4
2	荒川 美紗希	安中市役所 資産活用課	1
3	水口 蘭	安中市役所 政策・デジタル推進課	2
4	片岡 凌	安中市役所 政策・デジタル推進課	3

※1班：地域づくりプラン、2班：安中農ライフプラン、3班：企業連携プラン、4班：峠のまちプラン

### ○1班：地域づくりプラン



### ○2班：安中農ライフプラン



### ○3班：企業連携プラン



### ○4班：峠のまちプラン



※集合写真（右列）は第3回安中市移住・定住アクションプラン策定委員会（令和6年12月20日開催）閉会后に撮影しました。当日出席した委員のみの方のみの写真となっています。

## 特別編（応援メッセージ）

### コーディネーター野口さんからのメッセージ

ワークショップでは、リラックスしやすい工夫が随所であり、会場選びも斬新でした。事務局及び進行役の意気込みを感じたものです。

参加者には若者や女性が多く、活気や柔らかな雰囲気がありました。

そして、毎回の熊倉浩靖先生のスピーチは、内容に厚みを出してくださいました。

4つのプロジェクトの蕾ができました。この開花には今回の繋がりがパワーのもとになります。

さあ、これから、もっとまちづくりを楽しみましょう。



ゆとり研究所代表 野口智子

## アドバイザー熊倉さんからのメッセージ

### ワークショップで学んだ4つの視点

ワークショップを拝見していて、移住・定住政策を地域づくりの視点から考える上で4つの新しい視点を得られたように思う。

第1の視点は、暮らし続けてきた人々を大切に考えること。今を大切にしていなければ、移住される人々が暮らし続けてくれるはずがない。

第2の視点は、地域の力を平らかに確認すること。地域の諸産業や資源・エネルギー、人のつながりを過小評価しがちである。

第3の視点は、恒常的な移住者、企業従業員を大切にすること。暮らしやすい条件を整え充足感を確保することの大切さを痛感した。

第4の視点は、増加する外国籍住民を市民として受

- ▶ け入れ、暮らしやすく働きやすい地域とすること。
- ▶ 世界から選ばれる地域になろう。



高崎商科大学特任教授 熊倉浩靖







安中市移住・定住アクションプランロゴマーク

## 安中市移住・定住アクションプラン

あ ん な か L I V E

令和7（2025）年3月発行

発行：安中市

編集：安中市 政策・デジタル推進課

〒379-0192 群馬県安中市安中 1-23-13

TEL：027-382-1111 FAX：027-381-0503

URL：<https://www.city.annaka.lg.jp/>